

発行所：石川自治センター

発行者：石川自治センター長 矢内陽介

〒963-7859

石川町字南町 36

Tel 26-1554 (FAX も同)

石川自治センター だより



自治協議会設立のメリット・デメリット

自治協議会設立についての参考意見として、5地区の設立してよかった点(メリット)。苦勞している点(デメリット)。設立していなかったらについて。自治協議会設立の参考にして頂きたい。

◎ 設立のメリットについて、各部会において組織構成が同系団体であり、地域や団体の活動や問題点を共有し改善へ向けての協議・実行出来るようになり、同じ目的を持つ団体同士が協力出来るようになった。設立以前には自治センター事業を行う上で、行政区長の協力がなくては出来ないこともあり、行政区長の負担が大きかった。設立後は、部会に任せることが出来るようになったので、地域活性化をみんなで考え、協力して行えるようになった。

一人暮らし高齢者等に対し、健康福祉部会を中心に傾聴ボランティアも加わり傾聴訪問を実施。その中で手すりなど必要な高齢者に対し、地域包括に連絡するなど支援をしている。新規事業の企画立案がスムーズに行うことが出来た。● 設立のデメリットについて、自治協議会は、区長会長が就任すると規約

で定めていたが区長任期1年又は2年で継続性と言う点で心配されていましたので、規約を令和2年4月改正し、会長を広く人選出来るようにしました。各部団体に所属している事で自治協議会の役割に就くようになる。面倒、負担：と言った声もある。福祉部会等に関しては、日々の生活に係わることで、会議等の数が増え、構成員の負担になっているのか心配になることがある。自治協議会が出来たので、すぐに何でも出来ると思

い込んでい方がいる。
○ 設立していなかったら、少子化、人口減少が進展する中、地域コミュニティが衰退し、みんな支え合える仕組みを作らないと地域社会そのものが崩壊しかねない状況になる。さらに人口減少、高齢化が進む中で、福祉や見守り、まちづくりや生涯学習等に係わる団体等が解散し、地域での問題等を町で全て対応することになり、予算面、人的な面でも厳しい状況になるのではないかと。各種段他の内容が共有化されず、事業のマンネリ化していた。



製作中のペンケ

ものづくり講座「山葡萄でペンケづくり」



高校生による第3回目のもので、25日再開された。3名が参加、昨年末宿題とせられていた山葡萄蔓の鞆し、幅5ミリに裁断した材料を持ち寄り、ペンケづくりが始まった。幅5ミリの裁断等は経験者でも苦勞するところで、編み組をするまでの材料づくりの大変さを実感したようだ。ペンケづくりは、矢内先生指導の下、2本とび網代編みで立芯8本底の部分編み上げ、横の部分同様に編み上げた。次回迄の宿題となった。



倒木が川面に突き出ている様子。

町民の方からの要望
ご意見は、「今年も桜まつりに、多くのお客様が来町され、あさひ公園の桜見物に来た時に河川が汚くては景観も良く無く残念だ。」と述べていた。あさひ公園前の北須川が、ゴミや倒木により川面が汚いとの声が届いた。上流での河川工事等や時期的に水量が少ないことも要因の様だ。
例年桜まつり開催時期の1週間前には、役場や企業ボランティアの協力を仰ぎ、北須川・今出川の河川のゴミ拾い等を実施することを伝え、「川面に埋もれている倒木や中洲の雑草除去等は、早目の対応をして欲しい。」と要望していた。

ものづくり体験「タイルクラフト」教室学習会参加者募集

青少協石川地区協議会では、例年石川小学校通学生を対象とした体験学習会を開催しています。今年度学習会を下記の通り開催します。青少年の健全育成を図るための明るい家庭づくりや良好な友人関係を深めるための地域ぐるみ推進活動としておこないます。5, 6年生の皆さん。是非、ご参加ください。新型コロナウイルス感染症予防を講じて行います。

青少協石川地区協議会会長 溝井 恵介

講師：「岡部さおり先生紹介」【@works 彩】という名前で活動しています。コンセプトは『日常にイロドリとクワクワを♪』普段はステンドグラスやタイルクラフト他、色々なジャンルでマルシェに出店したり、最近では体験会を開いたりしています。普段は会社員のため休日を利用しての作品作り、イベント出店が主です。

- ・日 時：令和5年2月18日（土）午前9時30分～午前11時30分頃迄
- ・場 所：石川自治センター会議室（あさひ公園内）
- ・参加者：石川小学校5年生～6年生
- ・参加定員：申込順先着15名様限定。申込締切日2月13日(月)まで
(定員になった場合は、申し込み期日前でも募集を締切ります。)
- ・参加費：100円（当日、ご持参ください。）
- ・主催：青少協石川地区協議会・石川自治センター ・後援：石川小



タイルクラフト
作品例



石川寿大学（鈴木芳幸委員長）は、17日（火）1月学習会を石川自治センターで行った。学級生30名（男性5名・女性25名）が参加した。「町の政策外を聞く」と題して、菊池美知男町会議員を講師に招き講話を聞いた。学習会は、鈴木委員長挨拶後、菊池講師の自己紹介、頭の体操、町の政策、参加者からの意見を聞く、認知機能体操と、菊池さん独特の構成で学習会行って頂いた。講話の合間に体操を取

寿大学（石川寿・新田寿）2学級は、正月明けの寒いこの時期は、出席率低下する傾向だが、元気に多くの学級生で賑わい、楽しい学習会を行った。

新田寿健康大学（小豆畑幸司委員長）は、20日学級生20名（男性5名・女性15名）が参加して新田ふれあいセンターで1月学習会を行った。石川消防署署員沢村享子さんを講師に招き、「高齢者の火災予防他について」講話及び防火布実験、数値や体験談等を交えてご指導を頂いた。令和3年度全国での火災発生は、3万5千222件（住宅や林野含む）時間になると、15分に1件発生し、住宅火災では、千五百八人が亡くなり65歳以上

り入れるなど、学級生の健康等に気を配って頂きながら、楽しい学習会となった。



講話の合間に楽しく体操



が七百十六人と75%を占めている。亡くなる原因は、逃げ遅れ煙による一酸化炭素中毒により就寝中に死亡する方が多いからだ。火災発生の原因は、1位タバコ、2位焚火、3位台所、4位放火、5位電気火。電気火の火災発生がうなぎ上りに多くなっているようで、冷蔵庫等の裏コンセント部分にたまる「ホコリ」、たこ足配線等で容量オーバー、束ねる等の原因で発生することから注意する。逃げ遅れを防止する為にも、住宅火災報知器の設置をする事を進めた。学級生は、メモを取るなど真剣に学んだ。お忙しいところ有難うございました。写真は防火布の実験の様子。

2月度行事予定*諸般の事情により日時等変更になる場合もあります。

日 曜	行 事 予 定	備 考
8 水	ものづくり講座 16:30～	石川自治センター
14 火	石川寿大学学習会 9:30～	石川自治センター
16 木	新田寿健康大学学習会 9:30～ 地域自治協議会 18:30～	新田ふれあいセンター 町役場
18 土	青少協体験学習会 9:30～	石川自治センター

お詫びと訂正
センター日より1月1日号166号が154号となつてしまいました。申し訳ございませんでした。